

たけだ

広報

11

2013 No.104

Taketa Public Relations



↑ユルゲン・エルンスト国際メンデルスゾーン基金事務総長から「ライブツィヒ賞」と「メンデルスゾーンの胸像」を贈呈される野田さん

今年は熊本県代表、熊本市立必由館高等学校3年の野田桜子さんが第1位に輝きました→



『たきれん』優勝者が縁のドイツ・ライブツィヒ市へ 今なお生き続ける! 瀧廉太郎の「夢」

「瀧廉太郎記念全日本高等学校音楽コンクール」の優勝者には瀧廉太郎賞として、ウィーン短期留学助成金が贈られます。加えて、今年は廉太郎の留学先という縁で後援していただいているライブツィヒ市から、「優勝者を招待すること」が発表されました。果たせなかった「夢の続き」を受け継ぐ、音楽家の活躍を夢見て…。

故 渡辺嘉造伊・日本メンデルスゾーン協会初代理事長が橋渡しをした「友情のバラ」(瀧廉太郎記念館) H24.11月撮影





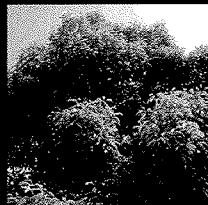
茨木市章

1948年8月31日制定。
「茨」の字を図案化したもので、中央に平和の象徴である鳩を表しています。

茨木市 IBARAKI CITY



市の花「バラ」



市の木「カシ」

面積 76.52km²
総人口 277,449人（平成25年9月末現在）
特産品 大甘青とう、ウド、花苗、赤しそ

いばらきし
茨木市は、淀川の北、大阪府の北部に位置し、東西10.07km、南北17.05kmと東西に短く、南北に長い地形をしています。

市内には、名神高速道路、近畿自動車道、国道171号、大阪中央環状線など多くの国土幹線や広域幹線道路が走るほか、北部地域では、新名神高速道路のインターチェンジの建設が計画されています。鉄道はJR東海道本線と阪急京都線が併走し、市内を走る大阪モノレールには、本線と彩都線を合わせて6駅（宇野辺・南茨木・沢良宜・阪大病院前・豊川・彩都西）が設けられており、平成30年春には（仮称）JR総持寺駅の開業が予定されています。

多くの広域幹線軸が交差する交通の要衝にある茨木市は、北大阪地域の中核都市として発展し、交通の利便性等を活かした「住み続けたいまち」として成長してきました。

さらに、立命館大学の進出や国際文化公園都市（彩都）、安威川ダムの建設等と併せてまちの活性化を図り、将来の発展を見据えながら、活力のある夢があふれるまちづくりに向けて取り組んでいます。



題字：草刈穂輝（書家）

大阪府茨木市と竹田市は、歴史文化姉妹都市を提携。大阪府北部に位置している茨木市は、本市と歴史・文化の分野において、深い関わりのある市です。
今月号では、3つのキーワードからみる本市との関わりと、観光や文化など、「茨木市」の魅力を紹介します。



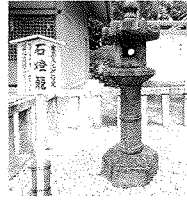
↑ 国史跡郡山宿本陣（格の本陣）
京都と西国を結ぶ重要路「西国街道」沿いにある郡山宿本陣は、江戸時代には参勤交代の宿泊や休憩に利用され、重要な役割を果たしました。

歴史・文化

1 万年以上もの昔から人々の活動がうかがえる茨木市。

日本でも有数の古墳群地帯で、古墳時代の初期から末期までの各時期の古墳が現存しています。

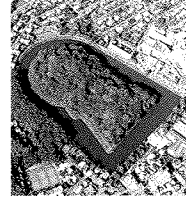
先人の足跡をしっかりと受け継ぎ、今日の礎となっています。



↑ 春日神社石燈籠
〔国指定文化財〕



↑ 銅鐻の鑄型
〔国指定文化財〕



↑ 太田茶白山古墳
〔継体天皇陵〕

希望と活力に満ちた文化のまち「茨木市」には
まちの魅力と、市民の笑顔があふれています。

ええやん！
いばらき



いばらきの四季 茨木市内で行われる主な行事です。

いばらきの春（3月～5月）

- ・郡山宿本陣春の特別公開（3月上旬）
- ・市民さくらまつり（4月上旬）
- ・総持寺の庖丁式（4月18日）
- ・春のバラが見ごろ（5月中旬から）

いばらきの夏（6月～8月）

- ・ホテル観賞会（5月下旬頃から6月初旬）
- ・竜仙峡のアユ釣り解禁（6月上旬）
- ・赤しその収穫（6月中旬）
- ・あじさいが見ごろ（6月下旬）
- ・茨木神社の輪くぐり神事（6月30日）
- ・大甘青とうの収穫（7月中旬から10月下旬）
- ・茨木フェスティバル（7月の最終土・日曜日）
- ・ミニトマト「あまっこ」の収穫（8月上旬～10月中旬）
- ・弁天さんの花火大会（8月8日）
- ・キツネノカミソリが見ごろ（8月中旬）

いばらきの秋（9月～11月）

- ・秋の七草展（9月上旬）

- ・いも掘り園開園（9月中旬～11月上旬）
- ・彼岸花が見ごろ（10月ごろ）
- ・黒井の清水大茶会（10月中旬）
- ・みかん園開園（10月下旬～11月下旬）
- ・秋のバラが見ごろ（10月下旬～11月上旬）
- ・いばらき環境フェア（10月中旬）
- ・郡山宿本陣秋の特別公開（11月上旬）
- ・竜仙峡のアマゴ釣り解禁（11月上旬）
- ・農業祭（11月中旬）
- ・阿為神社で蹴鞠の会（11月23日）
- ・イルミネーション点灯（11月下旬から2月初旬）

いばらきの冬（12月～2月）

- ・消防出初式（1月上旬）
- ・春の七草展（1月初旬）
- ・茨木十日戎（1月9日～11日）
- ・成人祭（1月第2月曜日）
- ・三島ウドの出荷（2月上旬）
- ・梅が見ごろ（2月中旬～下旬）

観光・自然

豊かな自然が残る山並みや農村風景は、散策・ハイキングコースにも恵まれています。また、市の花バラを植栽した美しい「バラ園」。観光農業として、シーズンにはいも掘りやみかん狩り、アユ釣り等が楽しめます。



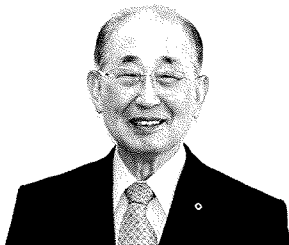
↑ 若園公園バラ園



↑ 棚田風景



↑ みかん狩り



竹田ライオンズクラブ会長 赤座 昭義さん

昭和57年、茨木市梅林寺にて、中川清秀公400年祭が開催され、本市各界より60名が参加しました。平成2年、茨木L.Cと竹田L.Cの間で「友好クラブ」締結。平成9年、「姉妹都市クラブ」を締結。以来、交流の頻度も高くなりました。

昨年竹田で行われました岡藩城下町400年祭が契機となり、『歴史文化姉妹都市』の調印が行われることになりました。私どものクラブのみではなく、竹田全域の経済振興と民間交流の推進に役立つことになればと思います。

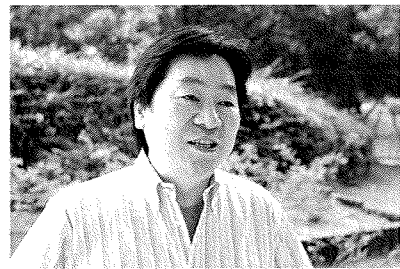


茨木にゆかりがある竹田市民

能勢 昭二さん・隆子さん夫妻（川向）

中川秀成の家来の末裔という能勢昭二さん（86歳）・隆子さん（83歳）夫妻。先祖代々の墓は、岡城跡の方角を向いているそうです。

敬虔なキリシタンとして育ったであろう中川清秀公。能勢さんもキリスト教を信仰しています。『歴史文化姉妹都市』を締結することになってうれしいですね。以前我が家のルーツを知りたくて、関西方面を訪問したことがあります。今後、交流をきっかけに、竹田市でもキリシタンの歴史文化の正しい理解が広がることを期待したいですね。」



竹田市出身の茨木市民 阿南 啓二さん

高校卒業まで竹田市で過ごした阿南さん。岡城跡で花見をしたり、白水の滝のあたりで川遊びなどが好き思い出。時報や駅の音楽で流れていた荒城の月を聞くと故郷を思い出すそうです。

「茨木市には、11年前に仕事の都合で引っ越してきました。子育て・教育が充実していて住みやすいので来てよかったです。竹田はあまり有名ではありませんが、景色はすごく良いですし、水も食べ物もおいしいです。ぜひ茨木市の皆さんも竹田に興味を持ってもらいたいですね。」

つなぐ——茨木と竹田に縁のある人たち

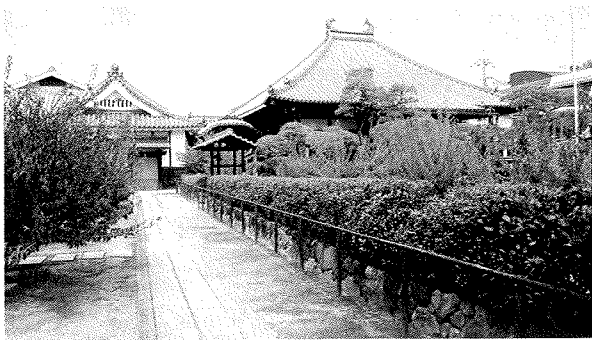
キーワード①

中川清秀公



↑中川清秀公の肖像画（梅林寺蔵）

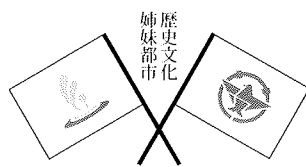
茨木市と竹田市の歴史的「つながり」を知る



↑梅林寺

茨木城主の中川清秀は天文11（1542）年摂津国島下郡中河原にて誕生、幼名虎之助。元龜2（1571）年、白井河原（茨木市）の戦で大功をたて、清秀は茨木城6万石余の城主になります（31歳）。織田信長の家臣として仕え活躍し、茨木12万石を賜りました。天正10（1582）年6月に本能寺で信長が明智光秀によつて滅ぼされ、光秀軍と秀吉軍が山城国山崎（京都）で激突（天王山の戦）の際に、清秀は第二陣として、兵数4（250

0）を率いて茨木城を出陣し、天王山の山上を占拠します。善戦して光秀軍を破り、軍功をあげました。翌年の天正11（1583）年、近江国賤ヶ岳を中心として秀吉と柴田勝家が激突します。清秀は秀吉の命を受け、再び茨木城より出陣。大岩山に砦を築き、700の兵と共に立てこもります。迎えた4月20日、勝家の武将・佐久間盛政の大軍の急襲にあい、激闘10時間の末、ついに清秀は自害し、家臣もろとも玉砕しました。享年42歳でした。遺髪は茨木城にもたらされ、



歴史文化 姉妹都市

御祝いのメッセージ

大阪茨木にございます太祖中川清秀公の菩提寺梅林寺の住職でございます。今般の竹田・茨木両市の歴史文化姉妹都市の締結にあたって一言御祝いの言葉をお送り申し上げます。

長年にわたる両市のライオンズクラブのご交流が実を結び、また歴史研究家の皆様や心ある市民の皆様方の熱い思いがようやくこの姉妹都市の締結にたどり着いたものと存じます。

大阪茨木に「ごいます太祖中川清秀公の菩提寺梅林寺の住職でございます。本当に同族の血が流れているのです。お会いしたことのない遠い親戚がお互いにたくさん住んでいるのです。四百年以上の時間と空間を越えて、いまようやく再び深い絆を結ぶことはこの上なく喜ばしく目出度いことで、このたびの歴史文化姉妹都市こそ正しく歴史の必然であるように思えてなりません。

今後の両市の交流が実り多いものとなって、新しい歴史文化の1ページが開かれるようにお祈り申し上げます。

最後にこの必然を現実のものにして下さった関係各位に心から敬意を表し、心から御祝い申し上げます。

首藤竹田市長、木本茨木市長をはじめ両市会議員の皆様、行政の皆様、歴史交流を深めて下さった市民の皆様、そして特に必然の糸をたぐり寄せていただいた両ライオンズクラブの皆様

に心から御祝い申し上げます。本当におめでとうございました。

茨木市 梅林寺住職

横内 弘隆

「竹田市と茨木市歴史文化姉妹都市締結」にあたって

今回、竹田市と茨木市とが歴史文化姉妹都市締結をする運びになったことを心からお慶び申しあげます。

竹田市教育委員会編の『中川氏御年譜』（平成19「2007」年3月31日発行）によりますと、中川清秀は、元龜3（1572）年9月に、茨木佐渡守重朝の居城であった茨木城を奪ったこと、ついで天正6（1578）年には、当時織田信長の領地となっていた茨木を支配していたことが記されています。

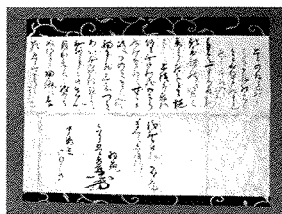
清秀は最後に、天正11（1583）年、賤ヶ岳で柴田勝家の甥佐久間盛政に敗れ、大岩山の山頂で切腹したことは、よく知られている通りであります。その間ずっと織田信長の下で茨木の支配者だった清秀は、秀吉より上位の武将として活躍するのですが、この時代の茨木の支配者としての清秀のことはあまり知られていないように思われます。

城主として茨木城にいた間の彼の領地支配の実態はどのようなものだったのでしょうか。

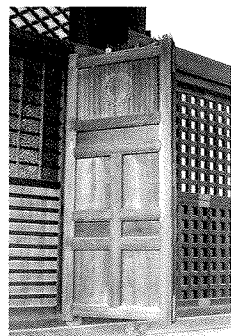
菩提寺である梅林寺に葬られました。墓石は梅林寺境内の墓地にあります。玉碎の報を受けた秀吉は、すぐ大岩山に向かい逆襲。柴田軍は敗走。勝家は自害します。この一戦にて秀吉の天下統一の幕が落とされたのでした。この時の清秀の奮戦と功績が買われ、秀政（清秀の長男）に後を継がせました。

天正13（1585）年大坂城が完成。秀吉の御居城により、摂津茨木が直轄領となると、秀政は1万石加増され、播磨三木城（兵庫県三木市）に所替えとなりました。

秀政は文禄元（1592）年3月25日、秀吉の命を受けて、朝鮮征伐に出陣します。各地にて善戦し、功をたてて水原城に入りますが、戦いの合間に鷹狩りに出かけたところを敵兵の毒矢に襲われ息を引きます。その後、中川家では事実を隠蔽



↑秀吉書簡（梅林寺蔵）



↑梅林寺（岡藩の家紋）



↑清秀墓（梅林寺）S.8再建



↑復元された茨木城櫓門（茨木小）

また、清秀の死後、家督を継いだ長男中川秀政は、豊臣秀吉の朝鮮出兵に伴って参戦し、かの地の水原城の近くで鷹狩りをしている時に、敵のゲリラに襲われて命を落とします。戦闘の最中にのんびりと鷹狩りをして命を落とすとは大将にあるまじきことであると秀吉の逆鱗に触れ、本来ならお家取り潰しになるところを、父清秀の功勞に免じてということで、九州竹田に転封になります。その時、家督を継いだ次男秀成は、一族郎党約4000名と共に竹田に入ったと書かれています。その後茨木に残っていた家臣とその家族などが入ってきます。現在でも茨木の時の苗字をそのまま使用されている方々が竹田に残っておられると聞きました。関西からさまざまな風俗習慣を持ち込んだと思いますが、その影響が何かの形で残っているのでしょうか。

今回の竹田市と茨木市との「歴史文化姉妹都市締結」を機会に、さまざまな調査研究がなされて、私が見てきたような疑問を含め、多くのことが明らかにになり、両市の歴史文化に関する有意義な締結になっていくことを期待しています。

中川 久定



中川久定 なかかわひさのぶ
竹田市名誉市民・中川家第18代当主
フランス文学者。文学博士。京都大学名誉教授。
日本学士院会員。



↑白井河原合戦跡

し戦死と取り繕おうとしましたが露見し、秀吉の怒りを買います。弟の秀成に家督相続を認めましたが、遺領の半分、播磨三木城6万6千を継いで、秀吉に仕えることとなりました。

秀成は文禄2（1593）年2月、秀吉から豊後岡に6万6千石の所領を与えられ移封します。

以上のような歴史的な過程を経て、『茨木』と『三木』と『竹田』へと移り変わった時代。これより中川家と岡城の277年の歴史が始まることになりました。

※今月号の「岡城遺産」(26頁)も「中川清秀公」を取り上げています。ぜひご一読ください。

キーワード②

キリシタン

山奥には人々の信仰を匿う「心」があった

茨木と竹田は、隠れキリシタンの里として有名です。かつては共にキリシタン大名によって治められた地域であり、日本のキリスト教布教地の重要な拠点でした。
しかし、豊臣秀吉はキリシタン宗の布教を厳禁し、また徳川幕府も禁教令を発布したため、信者らは隠れて信仰を続けていました。
先人たちが頑なに守り続けた信仰の証しとして、貴重な遺物が発見されました。



↑茨木市立キリシタン遺物史料館

茨木市北部（千提寺・下音羽地区）の高山右近旧領に、大正時代まで発見されなかった隠れキリシタンの家々があり、ある旧家は信仰の品々を入れた「あけずの櫃」を長男にのみ伝承し、誰にも見せませんでした。



→千提寺の民家から発見された「聖フランシスコ・ザビエル像」



→マリア十五玄義図（府指定文化財）



キーワード③

川端文学

時空を超えてつながる、文豪の故郷と「有由有縁」の地

ノーベル文学賞を受賞した文豪川端康成は、茨木市名誉市民です。康成は幼児期から旧制中学校卒業期まで茨木で暮らし、故郷を舞台にした作品も多数残されています。
また、「川端康成のゆかりのふるさと」として、川端康成やその文学に親しむ拠点となる「茨木市立川端康成文学館」があり、貴重な資料が展示されています。



↑「荒城の月」（川端康成直筆原稿）

家で発見されています。「茨木市立キリシタン遺物史料館」では、聖書の教えを絵画にした「マリア十五玄義図」を

「プリカ」（府指定文化財）をはじめ、発見された隠れキリシタンの貴重な資料を展示しています。



これから広がる「歴史文化交流」

初代岡藩主の中川秀成公が竹田城下町の建設を手掛けてから400年。昨年茨木市と「歴史文化交流パートナーシップ」を結び、わずか1年後に「歴史文化姉妹都市」へと発展。両市のつながりが一気に深まりました。
今後「歴史文化」を活かしながら、さらなる市民交流の発展を目指します。

竹田との縁は、昭和27年10月27日から28日にかけて、久住高原から竹田の城下町を訪れた取材旅行です。28日には竹田高校で講演されています。康成は、翌28年6月にも熊本での文学講演会の帰りに、単身で竹田を訪れています。この2回の取材。



↑川端康成旧宅跡



→茨木市名誉市民 川端康成氏



竹田の民芸品「姫たるま」



茨木市の民話「茨木童子」

大阪北摂の地茨木と豊後岡。この遠く離れた町が日本初の歴史文化姉妹都市を締結する。その理由の一つとして、両市に共通する貴重なキリシタン文化が挙げられるが、そこには単なるキリシタン遺物や遺跡だけではない意外な血の繋がりにあることに触れておきたい。

岡藩三代藩主の中川久清公は、中川

御年譜によると二代藩主久盛公と正室の間に生まれたと記録されているが、実際は安威の方という女性が実母である。そこで、安威の方とどのような女性だったのか、その実像を追ってみた。

安威の方は、本名「松風院 初」で、茨木の主要土豪であった安威一族の出身である。一族筆頭の安威佐佐木豊臣秀吉の祐筆であり、また、シモンとい

う洗礼名を持つキリシタンでもあった。一族のリーダーがそうであったならば、安威の方本人もまたキリシタンであったとしても不思議ではない。高山右近が去り、中川清秀亡き後に安威シモン了佐が豊臣家代官となり茨木に在城してから、同地方のキリシタンは彼に絶大な信頼を寄せていたであろう。

さて、安威の方を追う内に興味深い本に遭遇した。それは、摂津名所図会大成という本である。この本は、江戸期における大阪の観光ガイドブックとも言えるものだが、そこには安威殿が豊臣秀頼の側室と書かれている。また、観光ガイドブック的な本であれば、当時の大阪では、安威殿が秀頼の側室であったことは公然の事実だった

とも考えられる。だが、その一方で、中川御年譜には、安威殿を久清公の実母としながらも、身分は久盛公の侍女と書かれている。しかし、果たして、元の主君である秀頼の側室を久盛公が自分の侍女とすることができたのだろうか。もし、安威殿が秀頼の側室ならば、久清公は久盛公の実子ではなく、秀頼の子である可能性も捨てきれないのではないか。

ここに、前記の疑問が単なる絵空事とは言えなくなる裏付けがある。それは、岡藩城下町400年祭竹田市推薦図書になったザビエルコードだ。これは、著者の家に代々伝わる古文書を基に書かれたものだが、主人公が炎上する大阪城から一人の女性と秀頼の赤子を救出して岡藩に連れ帰る場面が描か

れている。出版当時、この二人の正体は不明だったようだが、後に某公的機関において名前が解明された。調査の結果、古文書には赤子の名が御津久様と書かれていた。津久丸は久清公の幼名であり、しかも大坂冬の陣と夏の陣の間の慶長二十年正月十日に生まれている。これを単なる偶然と捉えるかどうかは個人の判断に委ねるが、実にミステリアスな話である。

もう一つミステリーがある。それは、久清公の肖像画である(写真②)。父である久盛公の肖像画(写真①)と比較すると、その違いは歴然としている。久清公は明らかに日本人離れた顔で、まるで、南蛮屏風図に描かれているカピタンのようだ。ひよつとすると、実母の安威の方には南蛮人の血が混じっていたのではないだろうか。安威一族がキリシタンであったならば、当時の時代背景から考えて、南蛮人の血が入る可能性を否定できるものではない。名君と謳われた久清公には、安威一族、南蛮人、そして豊臣の血が流れているかもしれない。竹田と茨木には400年の時を超えて共通のミステリーが存在する。(後藤篤美)

岡藩三代藩主の実母「安威の方」の謎と実像を追う

ミステリアス! 竹田キリシタン①6 「大阪茨木編」

中川久清公の実母は大阪茨木の安威一族出身の女性だった。

参考文献

暁 鐘成「摂津名所図会大成」(1855)

竹田市「中川御年譜」(2007)

甲山 堅「ザビエルコード」(2012)

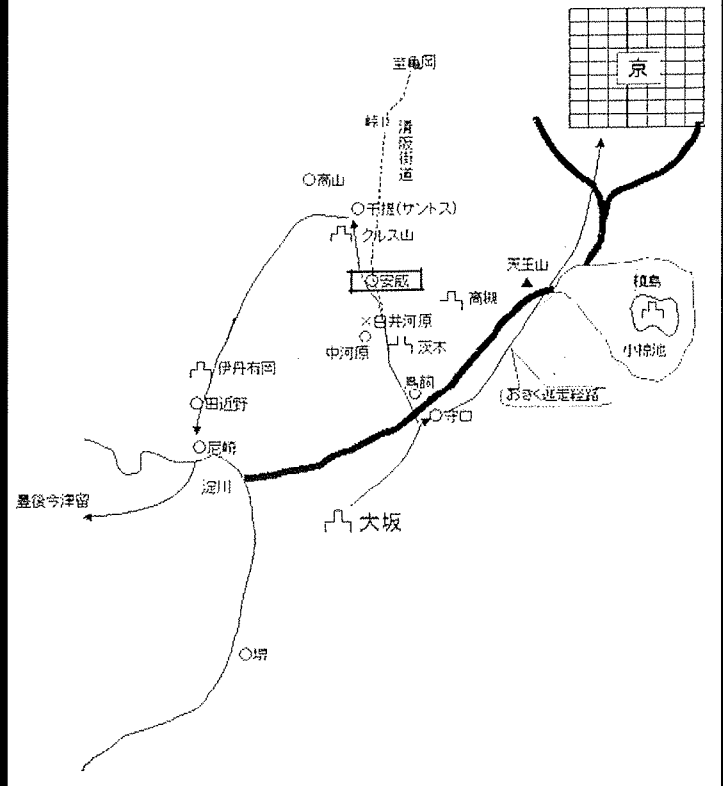
安威殿坂 右側門前の小坂をいふ一説に此道傳云、聖徳太子の北陸安威殿の邸宅ありし所なりと云ふ一説ハ此坂の北側の原野に秀頼公の髮妻おあい殿と申せしが住給ひしゆへ所と云ふと云ふ此阿婆どのハ元祿の亂に秀頼公の息女萬姫君(阿婆どの)と兩人朝宮左馬之助といふ者はたるきを以て城内より帯ね出し後藤三郎預り奉る後藤東山松岩の上人又々預り奉り兩女ともに尼となし參らせけるにより命を保ら給ふと云 或云城中にて自害し給ふとも



〔写真①〕二代藩主 中川久盛公肖像画

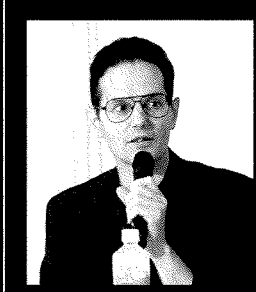


〔写真②〕三代藩主 中川久清公肖像画



↑撰津関係地図

↑安威の方について書かれた撰津名所図会大成



「外国人から見るとすごい驚きとして評価される場合もあるので、世界に向けた情報発信を」(レンゾ神父)



「禁教下の時代に全国各地からキリシタン関連の情報が集まったのは、幕府と陰のやりとりがあったのかも」(甲山氏)



「400年前に竹田の地で現在と同じような“信仰の自由”があったのではないか」(三浦氏)

全国に「竹田キリシタン文化」を発信！
新たな「竹田ルネッサンス」の幕開け



10月6日、竹田のキリシタン文化を考える「大分竹田キリシタン南蛮文化シンポジウム」が長湯歴史温泉伝承館「万象の湯」ルカスホールで開催されました。

はじめに首藤市長は「先人の残した足跡が、現代を生きる我々を着実に次のステージへと導いてくれている。新たな“竹田ルネッサンス”の幕開けです。」と挨拶を述べました。

続いて、「秘められた竹田キリシタンの可能性を探る」をテーマにパネルディスカッションが行われ、長崎日本二十六聖人記念館長のデ・ルカ・レンゾ神父氏、「高麗の牡丹」著者の三浦泰昌氏、「ザビエルコード」著者の甲山堅氏の3人のパネリストが、長年「謎」に包まれている竹田のキリシタン遺物について、熱い意見を交わしました。



↑「中世ヨーロッパの宗教画(イコン)展」



↑市内に点在する遺物を一堂に集結させた「竹田キリシタン遺物展」。多くの来場者が訪れました(会場：竹田市総合社会福祉センター)



↑貴重な「ヨーロッパワイングラス展」



キリスト教とともに伝来した南蛮音楽「古楽」を古楽器で演奏(カテリーナ古楽器研究所)